



## 経気管支肺クライオバイオプシーの習熟曲線及び鎮痛・鎮静薬使用量と合併症発生率の関連の検討

2021年4月1日から2024年3月31日までに日本医科大学付属病院 呼吸器内科で間質性肺炎の診断のために経気管支肺クライオバイオプシーを受けた患者さん

### 研究協力をお願い

当科では「経気管支肺クライオバイオプシーの習熟曲線及び鎮痛・鎮静薬使用量と合併症発生率の関連の検討」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2021年4月1日から2024年3月31日までに日本医科大学付属病院呼吸器内科にて、間質性肺炎の診断のために経気管支肺クライオバイオプシーを受けられた患者さんの合併症等を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

### (1) 研究の概要について

研究課題名：経気管支肺クライオバイオプシーの習熟曲線及び鎮痛・鎮静薬使用量と合併症発生率の関連の検討

研究期間：研究実施許可日から2025年6月30日

研究責任者：日本医科大学付属病院 呼吸器内科 職名 准教授 神尾 孝一郎

### (2) 研究の意義、目的について

この研究は、2つのことを目的として行います。

1) 私たちは、「気管支鏡下肺クライオバイオプシー」という検査方法について調べます。この検査は、肺の病気を見つけるための新しい方法です。どのくらいの正確さで病気を見つけられるか、検査中に合併症（検査に伴って起こる予期せぬ問題や体調の変化）が起こる可能性はどのくらいか、検査にかかる時間は施設の経験症例が増えるにつれて短くなるのか調べます。

2) 検査中に使う薬（痛み止めと鎮静剤）の量と、検査中の合併症の関係を調べます。使う薬の量によって、合併症が起こりやすくなったり、起こりにくくなったりするのを確認します。

これらがわかれば、医師はより適切に検査を行えるようになります。その結果、間質性肺炎と診断された患者さんに対して、より良い治療を提供できる可能性があります。

### (3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2021年4月1日から2024年3月31日までに日本医科大学付属病院呼吸器内科にて、経気管支肺クライオバイオプシーを受けられた間質性肺炎の患者さんのカルテ情報を調査し、患者背景、手技内容の推移、鎮痛・鎮静薬使用量と合併症発生率の関連についての検討を行います。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、性別、生化学検査、肺機能検査、病理検査、気管支鏡検査の記録、検査後の合併症 等

### (4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。

その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

### (5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

### (6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 呼吸器内科 職名 助教・医員 鏑木翔太

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24100

メールアドレス : s-kaburaki@nms.ac.jp